

令和6年度心のバリアフリー教育グッドプラクティス 応募資料

学 校 名	睦沢町立睦沢中学校	
ア 全校児童生徒数	146名 (令和6年5月1日現在)	
イ 実践対象 (学年・人数など)	① 全校生徒 146名 ② 全校生徒 146名 ③ 3年生(全クラス) 52名	
ウ 実践内容 (実施時期・概要など) ※画像の挿入可	① パラスポーツ体験 12月:「あすチャレ!スクール」による車椅子バスケットボール体験  ② 姉妹校ビティ校(シンガポール)との交流会 8月:町海外研修団本校生徒10名ビティ校視察 視察内容報告 11月:ビティ校生徒10名来町、交流会実施  ③ 認知症サポーター養成講座 6月:町福祉課による講義とロールプレイ 	
エ 実践の普及啓発 (地域等との交流や 広報方法など)	① ・保護者への周知(案内文書配付) ・学校だより1月号に体験のようすを掲載予定(全校生徒の家庭へ配付) ・校内に感想の掲示 ② ・保護者、町こども園、町小学校、町議員、学校運営協議会委員等への周知(案内文書配付、1000カ所ミニ集会と同時開催) ・町広報誌10月号に町海外研修団のようすを掲載(町全家庭へ配付) ・学校だより12月号に交流のようすを掲載(全校生徒の家庭へ配付) ・校内に感想の掲示 ③ マチコミメールでの周知	

<p>オ 実 践 成 果 (児童生徒の変化など)</p>	<p>①講師の体験談から、今ある日常は当たり前ではないこと、何事にも臆することなくチャレンジしていくことの大切さを学んだ。実際に車いすバスケットボールを体験することで、競技の楽しさだけでなく、車いすに施された工夫や配慮にも気づくことができた。また、車いすを利用している方の視点に立つことで、自分自身にできることについて、深く考えることができた。</p> <p>②交流会を実施することで、町海外研修に参加した生徒だけでなく、全校生徒がビティ校の生徒と交流することができた。シンガポールの文化を知るだけでなく、書道パフォーマンスや剣道体験を通じて、日本の文化を見直すこともできた。今回の異文化交流から共生社会の実現に重要な「お互いを知ること」「受け入れること」を実感することができた。</p> <p>③認知症の特性を理解し、高齢者への対応のしかたを身につけることができた。高齢化が進む陸沢町で生活する一員として、認知症の方だけでなく、その方を支えている家族に対しても理解を深め、困っている方を見かけた時に、自分にできることは何かを考えることができた。</p>
<p>カ 次 年 度 の 予 定 (課題や改善策など)</p>	<p>①昨年度のパラスリット訪問事業での車いすバスケットボールチーム「千葉ホークス」による体験に続いて実施した。障がいの有無に関わらず、一緒にスポーツを楽しむことで、障がい者への理解が深まった。道徳科との関連を深めながら継続していく。</p> <p>②コロナ禍で4年ぶりの再開であった。オンラインでの交流が続けてきたが、実際に会うことで、より相互理解が深まったという感想が多かった。町教育委員会と協力しながら、今後も交流を続けていきたい。</p> <p>③引き続き町役場福祉課と協力して、継続していく。2年生での職場体験(介護老人福祉施設、医療機関、こども園等)と関連をもたせることで、更に深めていく。</p>
<p>キ 添 付 資 料 (広報資料・Web記事など)</p>	<p>①あすチャレ!保護者案内文書【資料1】</p> <p>②1000カ所ミニ集会案内文書【資料2】</p> <p>ビティ校との交流会のようす・感想の掲示物【資料3】</p> <p>学校だより12月号【資料4】</p>

※A4サイズ2ページ以内に調整すること。